

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(前回比較版)

令和5年1月4日～令和5年2月1日を調査期間とし、市内65歳以上の方で、要介護認定を受けていない方のうち、3,000人を抽出しアンケートを行いました。

3年前の調査結果と比較するため、結果値を(前回値→今回値)で表示しています。

1 実施概要

調査対象者	今回 R4	今回 R1	増減
調査対象者数	18,119 人	18,771 人	-
回答数(回収率)	2,199 人(73.3%)	2,280 人(76.0%)	2.7%減

地区別回収率	東部地区(第1)	中央地区(第2)	西部地区(第3)
計 73.3%	70.4%	75.6%	73.1%

2 本人の状況

介護・介助の必要性 (P9～P16)

- ・普段の生活で介護・介助は必要ない(82.9%→80.5%)
- ・普段の生活で「何らかの介護・介助が必要だが現在は受けていない」、「現在、何らかの介護・介助を受けている(13.8%→16.4%)

からだを動かすことについて (P17～P29)

- ・転倒に対する不安がある(52.6%→59.4%)
- ・過去1年間に転んだ経験がある(30.8%→32.1%)
- ・外出を控えている(18.8%→34.9%) 主な理由は新型コロナ

食べることについて (P23～P29)

- ・全体の低栄養リスク(1.0%→1.3%)
 - ↳東部地区(1.2%→1.7%)、中央地区(0.6%→0.7%)、西部地区(1.1%→1.6%)、
- ・孤食傾向にある(17.6%→21.3%)

毎日の生活について (P30～P39)

- ・IADL の低下(15.8%→16.1%)
- ・趣味あり(66.4%→63.0%)
- ・生きがいあり(55.6%→53.4%)

IADL: 買い物、食事の準備、服薬管理、金銭管理などより複雑で労作が求められる活動を行う能力

地域での活動について (P40~P47)
<ul style="list-style-type: none"> ・参加していない割合が全体的に増加 「趣味関係のグループ」(51.0%→59.6%)、「学習・教養サークル」(60.2%→69.9%)、 「町内会・自治会」(50.1%→60.0%) ・「収入のある仕事」をする割合(週1回以上 17.7%→19.0%)
健康について (P59~P66)
<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態がよくない(17.1%→18.6%) ・現在治療中、または後遺症のある病気 (高血圧 45.0%→47.8%) ・フレイルの認知度 20.7%
介護が必要になった場合の暮らし方 (P67)
<ul style="list-style-type: none"> ・介護が必要となった場合、自宅を希望する人(63.9%→64.5%) 「自宅で家族などを中心に介護してもらいたい」(19.3%→16.2%) 「自宅で介護サービスや福祉サービスを活用したい」(44.6%→48.3%) ・老人ホームや病院に入所したい人(27.2%→23.3%)

3 調査結果から見える地域特性 (P92)

東部地区 (第1日常生活圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らし高齢者世帯の割合が第2圏域とほぼ同率で高い。 ・普段の生活で介護・介助が必要である人の割合が最も高い。 ・徒歩で外出する人の割合が最も低い。 ・健康状態がよくない人の割合が最も高く、趣味や生きがいを持っている人の割合が最も低い。 ・介護が必要となった場合の在宅介護サービスの利用意向が高い。
中央地区 (第2日常生活圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・介助が必要である人の割合が低いものの、後期高齢者及び1人暮らし高齢者世帯の割合が最も高い。 ・徒歩で外出する人の割合が最も高い。 ・転倒リスク及び口腔機能の低下リスクのある人の割合が最も高い。 ・フレイルの認知度が最も高い。
西部地区 (第3日常生活圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・介助を受けている人の割合が少なく、親や配偶者の介護・介助をしている人の割合が最も高い。 ・趣味関係のグループや介護予防のための通いの場に参加している人の割合が低く、地域活動への参加意向が最も低い。 ・認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人の割合が最も高く、認知症相談窓口の認知度も最も高い。